

# 野菜畑作生産情報 第2号

平成29年5月18日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎小麦の出穂期がやや早まる見込み。赤かび病の適期防除に努めましょう！  
◎野菜の生育はおおむね順調。適正管理を徹底しましょう！

## 畑作物

### 1 小麦

#### (1) 生育状況

- ア 草丈・茎数ともおおむね平年並から上回っている。
- イ 出穂期は、幼穂形成期以降の気温が平年並から高く推移したことから、平年より2～5日程度早まる見込みである。
- ウ うどんこ病が散見される。

表-1 小麦の越冬後の生育状況（5月10日現在）

場所	年次	ネバリゴシ				キタカミコムギ			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	幼穂形成期 (月/日)	出穂期	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	幼穂形成期 (月/日)	出穂期
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	46.7	564	4/7	(5/19)	49.6	561	4/9	(5/21)
	平年差・比	(103%)	(88%)	(早3日)	(早2日)	(97%)	(91%)	(早4日)	(早2日)
	平年	45.3	638	4/10	5/21	51.1	614	4/13	5/23
野菜 研究所 (六戸町)	前年	62.7	478	3/19	5/15	68.9	550	3/24	5/17
	本年	60.7	754	3/28	(5/19)	/			
	平年差・比	(103%)	(82%)	(早1日)	(早3日)				
平年	58.7	922	3/29	5/22					
つがる市 (木造)	前年	71.9	834	3/19	5/16	62.9	629	3/19	(5/18)
	本年	61.8	623	3/17	5/15	(106%)	(117%)	(早12日)	(早3日)
	平年差・比	(114%)	(98%)	(早8日)	(早5日)	59.4	538	3/31	5/21
十和田市 (三本木)	前年	70.4	572	3/15	5/15	74.4	435	3/14	5/15
	本年	59.4	951	4/1	(5/20)	/			
	平年差・比	(133%)	(114%)	(早1日)	(早3日)				
平年	44.5	831	4/2	5/23					
前年	64.7	1,133	3/18	5/17					

- 注) ①農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市(三本木)は生育観測ほの調査成績。  
②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」がH18～H28年産の過去11か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」がH20～H28年産(H24年産(出芽不良)を除く)の8か年、つがる市(木造)と十和田市(三本木)の「ネバリゴシ」が過去15か年、つがる市(木造)の「キタカミコムギ」が過去21か年の平均値。  
③出穂期は、5月16日時点で、( )内は見込み月日。

#### (2) 今後の農作業の留意点

- ア うどんこ病の防除は、病斑が止葉直下葉に発生した直後に薬剤散布を行うと効果的である。ただし、アミスター20フロアブルは、出穂後に使用すると、赤かび病のカビ毒汚染低減効果が劣る事例があるため、別の薬剤を使用する。
- イ 赤かび病は、収量や品質の低下をもたらすばかりでなく、カビ毒を含むため、赤

かび粒の混入割合が1万粒に4粒を超えると流通できなくなる。防除は、開花始めから開花期に1回目の防除を行い、その7日後に2回目の防除を行う。2回目の防除後、天候不順が続き蔓延のおそれがある場合は追加防除を行う。

ウ 湿害防止のため、排水口や明きよの点検補修を行い、ほ場の排水に努める。

エ 生育が遅れ、出穂期に達していない場合は、一穂粒数を確保しタンパク質含有率を高めるため、2回目の追肥を出穂期までに行う。追肥量は10a当たり窒素成分で2kgを基準とするが、茎葉の繁茂状況や葉色等を勘案して調整する。(平成19年度指導参考資料の「小麦ネバリゴシのタンパク質含有量を高めるための追肥は葉色値(SPAD値)で判断できる」を参照)

オ 出穂期がやや早まる見込みのため、収穫期も早まることが予想される。今後の登熟状況に注意し、適期収穫に備える。

## 野菜

### 1 にんにく

#### (1) 生育状況

ア 生育は県全域で平年並からやや早まっており、りん片分化期は、平年より3～6日早く到達した。

イ ほ場の乾燥や強風により、葉先枯れが見られる。

ウ 病害虫の発生は、ほとんど見られない。

表-2 にんにくの生育状況(5月10日現在)

場所	年次	草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎径 (mm)	りん片 分化期 (月日)	収穫期 (月日)	備考
野菜研究所 (六戸町)	本年 (並比)	87.3 (112%)	10.7 (105%)	19.2 (98%)	4/17 (5日早)	— (—)	透明マルチ
	平年	78.1	10.2	19.5	4/22	7/4	
	前年	96.1	12.1	22.2	4/12	6/21	
藤崎町 (福島)	本年 (並比)	55.7 (102%)	6.4 (97%)	15.3 (87%)	4/26 (3日早)	— (—)	無マルチ
	平年	54.4	6.6	17.5	4/29	7/2	
	本年	65.5	7.5	19.0	4/24	7/1	
七戸町 (榎林)	本年 (並比)	65.1 (107%)	7.0 (95%)	18.0 (102%)	4/21 (3日早)	— (—)	グリーンマルチ
	平年	61.1	7.4	17.7	4/24	6/28	
	前年	80.3	8.1	23.3	4/14	6/17	
田子町 (田子)	本年 (並比)	63.3 (101%)	7.9 (103%)	16.3 (91%)	4/18 (6日早)	— (—)	グリーンマルチ
	平年	62.7	7.7	18.0	4/24	6/28	
	前年	71.1	8.4	18.6	4/15	6/20	

注) ①平年：野菜研究所は平成22～28年の7か年の平均値。

藤崎町は平成9年～28年の20か年の平均値。

七戸町は平成8年～28年(平成25年を除く)の20か年の平均値。

田子町は平成8年～28年の21か年の平均値。

②種子：藤崎町は福地ホワイト(13～15g)。

七戸町は白玉王(12～13g)

田子町は白玉王(10～12g)

③葉数：野菜研究所は抽出葉数。

藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

## (2) 今後の農作業の留意点

### ア 今後の見通し

向こう1か月の天候の見通し(5月11日気象庁発表)では、気温は平年並か高く、降水量・日照時間はほぼ平年並であることから、今後の生育も平年並からやや早まると見込まれる。

### イ 病虫害の適期防除

(ア) 春腐病は、降雨や濃霧が続くと急増するので、天気予報で3～4日曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前に予防散布を実施する。また、腐敗が進行している株は伝染源となるので見つけ次第抜き取る。

(イ) さび病が発生しているほ場では、効果持続期間が長い薬剤を散布して、病勢の進行を抑える。

(ウ) 葉枯病、黄斑病、白斑葉枯病、ネギコガなどは、ほ場を見回り、早期発見・早期防除を徹底する。

### ウ とうの摘み取り

抽だいが始まったら、随時とうを摘み取り、球の肥大を促す。とうの摘み取りは、珠芽が葉鞘から完全に抜け出してから行う。

## 2 ながいも

### (1) 今後の農作業の留意点

ア 普通栽培の植付適期は5月中旬～6月上旬なので、計画的に植え付ける。ただし、切いもの場合は、地温が低いと種いもの腐敗を招きやすいため、地温15℃以上を確保できる5月下旬～6月上旬に植え付ける。

イ 覆土は、植付後速やかに6cm程度の厚さで行う。2～3週間後に、さらに6cm程度培土し、植付の深さは12cm程度とする。

ウ 頂芽付小型1年子の早植栽培(4月下旬～5月上旬植付)の基肥は、萌芽期(萌芽が50%の頃)に、窒素成分で10a当たり6～10kg施用する。

## 3 春夏にんじん

### (1) 生育状況

ア 生育は平年を上回っている。

イ 病虫害の発生は見られていない。

表-3 春夏にんじんの生育状況(5月10日現在)

場所	年次	は種期 (月日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (mm)	根重 (g)	備考
六戸町 (下吉田)	本年 (平年比)	3/13 (3日早)	24.1 (145%)	6.0 (128%)	18.4 (137%)	13.7 (188%)	9.8 (426%)	透明ポリ トンネル
	平年	3/16	16.6	4.7	13.4	7.3	2.3	
	前年	3/6	18.7	6.5	15.7	10.9	5.2	

注) ①平年：平成19年～28年の10か年の平均値。

②品種：平成19～20年は「ねぶたキャロ」、平成21～28年は「彩誉7」

### (2) 今後の農作業の留意点

#### ア 間引き

トンネル栽培では本葉5～6枚時まで、べたがけ栽培では本葉3～4枚時までに1本立てとする。なお、次のような株は間引きする。

- ① 葉色が濃すぎるもの
- ② 葉が粗剛で刻みの大きいもの
- ③ 葉数が多すぎるもの
- ④ 生育が極端に良すぎるもの、または悪いもの
- ⑤ 病虫害の被害があるもの

## イ 温度管理

(ア) トンネル栽培では、高温障害を防ぐために温度管理を徹底する。

① 4葉期まで：30℃以下      ② 5葉期～：25℃以下

③ 5月下旬：順化（棲、裾は開けたまま）

④ 6月上旬：除覆（平均気温15℃以上）

(イ) ベたがけ栽培では、本葉5～6枚時を目安に除覆する。ただし、この時期に低温が予想される場合は、本葉7枚頃まで除覆せず保温に努める。

## ウ 追肥

(ア) トンネル栽培では、本葉5～6枚時に、窒素、加里とも成分で10a当たり3kg程度の追肥を行う。

(イ) ベたがけ栽培では、本葉3～4枚時に、窒素、加里とも成分で10a当たり3kg程度を追肥し、本葉5～6枚時にも同様に行う。

## 4 春だいこん

### (1) 生育状況

ア は種が遅れたため、生育は平年をやや下回っている。

イ 病害虫は、ハモグリバエ類が散見される。

表－4 春だいこんの生育状況（5月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)	備 考
おいらせ町 (内山平)	本年 (平比)	3/24 (4日遅)	34.3 (90%)	19.7 (93%)	190 (81%)	透明ポリマルチ＋ 透明ポリトンネル
	平年	3/20	38.1	21.1	235	
	前年	3/12	39.5	23.0	434	

注) ①平年：平成19年～28年の10か年の平均値。

②品種：春の星

### (2) 今後の農作業の留意点

#### ア 収穫

根部の肥大状況を確認しながら適期に収穫する。

#### イ 病害虫防除

例年、キスジノミハムシの発生が見られるほ場では、トンネル除去後、早めに防除する。

## 5 ばれいしょ

### (1) 生育状況

植付期は平年より5日早く、萌芽期は平年より1日早かった。萌芽後の生育は順調で、平年を上回っている。

表－5 ばれいしょの生育状況（5月10日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 数 (本)
三 沢 市 (三 沢)	本年 (平比)	4/ 4 (5日早)	5/ 4 (1日早)	14.7 (134%)	3.0 (130%)
	平年	4/ 9	5/ 5	11.0	2.3
	前年	3/21	4/25	22.6	2.5

注) ①平年：平成17～19年、平成21～24年、平成26～28年の10か年の平均値。

②萌芽期の平年：平成17年、平成21～24年、平成26～28年の8か年の平均値。

③品種：メイクイン

## (2) 今後の農作業の留意点

### ア 培土と追肥

1回目の中耕・培土は草丈10cm頃を目安に行う。2回目は、着蕾期（40～50%の株が蕾を着ける時期）に窒素成分で10a当たり4～5kgを追肥してから行う。

### イ 病害虫防除

6月中旬以降になると病害虫が発生しやすくなるので、早期発見・早期防除に努める。

なお、疫病の防除は予防散布を徹底するとともに、同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤を交互に散布する。

## 6 メロン

### (1) 生育状況

トンネル栽培（4月下旬～5月上旬定植）では、定植作業が順調に進み、定植後の活着も良好で、生育はおおむね順調である。

### (2) 今後の農作業の留意点

#### ア 温度管理

トンネル内の温度は15～30℃を目標に換気し、雌花の確保と生育促進に努める。

#### イ かん水

乾燥による生育抑制が懸念されるほ場では、かん水に努める。

#### ウ 整枝・着果

(ア) 子づる2本仕立てとし、うねと直角方向に誘引する。着果節位は子づるの10～15節とし、子づる1本当たり3～4果連続で着果させる。子づるは22～25節前後で摘心する。

(イ) 孫づる(わき芽)は、着果節位までは早めに全てを除去し、着果節位の孫づるは、開花期前後に1～2葉残して摘心する。着果節位より上の孫づるは、順調な生育状態では全て除去するが、草勢が弱い場合は1葉を残して摘心する。つる先の2～3本は、生育調節のために残しておく。

#### エ 交配

着果節の開花7日前までにミツバチの巣箱を畑に設置し、蜂の訪花活動を促す。蜂の動きが活発でないときは人工交配を行う。人工交配は、雄花の花粉を直接または筆で雌花の柱頭に軽く付ける。また、不順天候の場合はホルモン処理を併用する。

#### オ 摘果

果実が鶏卵大（着果後7～10日）の頃に、形状の良いものを子づる1本当たり2果残す。

---

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合には、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

---

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

---

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報 ([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))

農薬登録情報検索システム (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

---

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。

- 1 70歳以上の方による農作業事故が増加しています。農作業は焦らず、急がず、慎重に！
  - 2 機械操作や高所作業等においては、ヘルメットを着用しましょう！
  - 3 万一の事故に備えて、労災保険や農機具共済等に加入しましょう！
- 

---

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5078
直通	017-734-9481

---